

交通計画改定に係る各種住民意識調査について

1 住民意識調査の目的・現計画の課題等

「東浦町地域公共交通網形成計画」を令和3年度末に改定するため、住民を対象とした意識調査を実施する。なお、本調査は、現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報の聴取を第一目的とし、さらに公共交通に対する意識・行動変容を促すことを狙った、アンケート等を実施する。

(1) 現計画の実施状況（※現計画を一部抜粋した概略版は別紙1を参照）

住民意識調査の事前説明として、現計画の実施状況について報告する。なお、現計画に記した事業は全て実施しており、詳細は表1のとおりである。

表1 東浦町地域公共交通網形成計画の実施状況

東浦町地域公共交通網形成計画事業及びスケジュール					実施状況(平成28年度～)				
基本的な方針	事業の内容	実施主体	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	有無	具体的な内容
コンパクトなまちづくりと連携した地域	1-1 公共交通の運行	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者、タクシー事業者		期間を通じて継続的に実施				○	公共交通の継続運行(H28～)
	1-2 乗り継ぎに配慮した便利な路線及びダイヤの設定	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者		適宜改善(期間を通じて検討・協議)				○	・新ダイヤ策定のため、各地区グループインタビューや住民アンケート調査等を実施(H30) ・R1.10月・R2.2月にダイヤ改正を実施(R2)
	1-3 走行・待合・乗降環境の改善	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 バスタクシー事業者、うらら運行受託業者		適宜改善(期間を通じて検討・協議)				○	・バス停の時刻表防護板が汚れ、時刻表が見えづらくなっていたため、全バス停の防護板の取替を実施(H29) ・台風等で倒れる可能性のあるバス停を補強(H29) ・台風対策でバス停を新設(R2)
	1-4 まちづくり部局や観光部局、教育部局等との連携強化	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 東浦町観光協会		期間を通じて協議				○	・学校教育課・緒川小学校と連携し、「うらら」の乗りこぼし対策の補完としてのタクシー運行を実施(H28～)
過度な自動車依存からの脱却と外出交流促進の両立	2-1 公共交通に対する乗機啓発(シンポジウム、セミナーなどの開催等)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バスタクシー事業者			随時実施			○	・公共交通に関する講演会(東浦町のくらしの足をみんなで考える会)を実施(H30)
	2-2 公共交通に親しむイベントの開催(バスギャラリーなどの公共交通イベントの開催)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バス事業者、住民			毎年実施			○	・町内の児童館や保育園と連携し、子供たちの絵を飾ったハロウィンバス・クリスマスバスを運行(H28～)
	2-3 高齢者の自動車運転免許自主返納の促進(自動車運転免許自主返納制度の周知・利用促進等)	東浦町、半田警察署、住民		実施		継続的に実施		○	・東浦町高齢者運転免許自主返納支援事業を開始し、高齢者の運転免許自主返納を促進(H28～)
	2-4 総合地域公共交通マップの作成	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バスタクシー事業者		検討・協議			実施	○	・新ダイヤの路線図に他市町の運行バス及び民間バスの情報を掲載(R2～)
	2-5 町運行バス「うらら」の利用環境の整備及び利用促進(バスロケーションシステムの導入などの利用促進策を実施等)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者		実施		継続的に実施		○	・東浦町バスロケーションシステムを導入(H28～)
	2-6 民間路線バスの利用促進(分かりやすい情報提供等)	東浦町地域公共交通会議、バス事業者 東浦町		期間を通じて検討・協議、実施				○	町HPで民間路線バスやタクシーを紹介するとともに、「うらら」との接続方法等を紹介(H28～)
	2-7 タクシーの利用促進(分かりやすい情報提供等)	東浦町地域公共交通会議、タクシー事業者 東浦町		期間を通じて検討・協議、実施				○	
	2-8 タクシーの運賃負担軽減策の実施(タクシー助成券などの運賃負担軽減策の協議・実施)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 タクシー事業者		実施	期間を通じて検討・協議、実施			○	・東浦町高齢者運転免許自主返納支援事業に、タクシー助成券を導入し、タクシー事業の利用促進を図った。(H28～)
きんぐら生活の足「うらら」を支える公共交通として利用形式	3-1 町運行バス「うらら」の経路見直し	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者、近隣市町		検討・協議			実施	○	・新ダイヤ策定のため、各地区グループインタビューや住民アンケート調査等を実施(H30)
	3-2 運賃制度の改善、運賃割引制度等の導入(企画乗車の導入等)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バス事業者 東浦町商工会		検討・協議			実施	○	・夏休み期間中に企画乗車券(小中学生10円バス)を実施(H30～R1) ※R2年度はコロナ禍の影響を受けて中止
	3-3 生活圏スケールでの公共交通利用に向けた連携(近隣市町との情報共有及び連携強化)	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、近隣市町		期間を通じて協議				○	・バスロケーションシステムを導入する際、近隣市町と協同導入を協議した。結果、刈谷市と共同導入を実施し、経費節減を実現するとともに、相互利用促進を図った。(H28～)
	3-4 町運行バス「うらら」の車両及びバス停留所への協賛促進	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者		適宜改善(期間を通じて検討・協議)				○	・既に有料広告の申込みのある企業以外にも積極的に声をかけ、協賛促進を図った。(H28～)

※ 事業の内容及び実施主体の詳細については、「第7章 目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事業」における各「実施する事業」を参照。

※本内容は、令和2年12月11日に実施した「令和2年度第4回東浦町地域公共交通会議」で書面決議をとったものである。

(2) 現計画で残った課題（新計画で実施すべき事業）

- ① 路線の見直し、新設などを進め、町内外の移動をより便利にする
- ② 利用促進・啓発（公共交通マップや保育園等の乗り方教室は継続し、さらにバスに接する機会づくりを設ける）
- ③ 移動＋交流の機会づくり（バスを利用したイベントの開催、ツアーの提案等）

2 東浦町の公共交通とあなたの外出についてのアンケート

現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報の聴取を第一目的とし、公共交通に対する意識・行動変容を促すことも狙ったアンケートを実施する。

(1) 内容

アンケートの内容は、5つの要素でできており、①外出の頻度等に関する質問、②公共交通の利用頻度に関する質問、③現行施策に関する質問、④回答者の属性を区分するための質問、⑤「う・ら・ら」を利用するための意識・行動変容を促す質問である。なお、詳細はアンケート調査票を参照（別紙2-1、2-2参照）。

表2 アンケート調査票の各質問の目的・内容

		目的	内容
質問1	1	現計画の評価	目標2:(2)成果目標 指標2の評価のために聴取する。
	2	新計画の施策検討材料	外出傾向を把握し、実施すべき事業の見当をつける。
	3	新計画の評価指標	「う・ら・ら」で行ける箇所数または割合を評価指標にする。
質問2	1	基礎情報	各種公共交通機関の利用頻度により、各質問の回答傾向に差が生じるか等を分析するために利用する。
	2		
	3		
	4		
	5		
質問3	1	現計画の評価	目標1:(2)成果目標 指標2の評価のために聴取する。
	2	現計画の評価	目標1:(1)成果目標 指標1の評価のために聴取する。
	3	自由記述	公共交通に住民の意見書等から、実施すべき事業の見当をつける。
質問4	1	基礎情報	回答者の年齢や居住区等により、各質問の回答傾向に差が生じるか等を分析するために利用する。
	2		
	3		
	4		
質問5	1	新計画の評価指標	「う・ら・ら」の認知度を測る評価指標にする。
	2	意識・行動変容 (+基礎情報、新計画の 施策検討材料)	回答者の「う・ら・ら」に対する理解を深め、利用促進を図る。また、回答で得たおでかけプラン等を活用した利用促進策を検討する。
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		

(2) 配布時期・対象

7月下旬頃から、町内在住の12歳以上の方900名を対象にアンケートを配布する。なお、配布の内訳は、令和3年6月末日の東浦町の指定区別年齢別男女別人口調（住民基本台帳システム）をもとに各年代の人口比を揃え、6地区（森岡、緒川、緒川新田、石浜、生路、藤江）で等分する。

表3 令和3年6月末日の東浦町の総人口

	総数	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人数	50,360	9,268	5,542	5,866	7,370	6,860	5,296	6,225	3,933

※東浦町の指定区別年齢別男女別人口調（令和3年6月30日作成）より

表4 アンケートの1地区分の配布数

	総数	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
配布数	150	27	17	18	22	21	15	18	12

※アンケートは12歳以上を対象に配布するため、0～11歳の人口比は「12～19歳」に含めて計算

※年齢は、令和3年4月1日現在で満年齢になっている方を対象とする。

(3) 同封する資料（送付用の封筒は別紙3参照）

- ①依頼文（別紙4参照）
- ②アンケート調査票（本人用1部、同居家族用2部）（別紙2-1、2-2参照）
- ③返信用封筒（1部）（別紙5参照）
以下、「う・ら・ら」を利用するための意識・行動変容を促す質問の関連資料として同封。
- ④ 楽しい「う・ら・ら」のはじめかた（A4冊子12ページ、1部）（別紙6参照）
- ⑤お試し乗車券（2枚（往復分）×3人＝6枚）
⇒④の裏表紙に印刷。お試し乗車券により減額する運賃収入は本町が負担する。
- ⑥路線図・時刻表（1部）
- ⑦東浦安心おでかけマップ2021（1部）

(4) 住民アンケートのスケジュール

住民アンケートのスケジュールは表5のとおりである。以降のスケジュールは別紙7を参照。

表5 住民アンケートに係るスケジュール

時 期	内 容
4月～6月末	アンケート調査票、同封する資料等の文章作成
6月16日	第1回地域公共交通会議にて協議 (調査目的、概要等を書面決議)
6月中旬～7月13日	アンケート調査票、同封する資料等のデザイン作成
7月15日(本日)	第2回地域公共交通会議にて協議 (アンケート調査票の質問等を説明)
7月16日	細部調整
7月17日～23日頃	アンケート調査票、同封する資料等の印刷
7月26日～30日頃	封入作業・発送
8月	アンケート調査票の回答期間・お試し乗車券の利用期間
8月31日	アンケート調査票の回答締切(消印有効)・ お試し乗車券の有効期限
9月	アンケート調査の回答分析
10月	第3回地域公共交通会議で結果報告

3 東浦町の公共交通とあなたの外出についてのワークショップ

交通計画改定のため、町民の方の意見聴取の場として実施することが第一目的だが、さらに、参加した方に「学び」や「気づき」が与えられるような生涯学習の場となるように配慮する。

(1) テーマ・内容

町民の方のおでかけ需要や、「う・ら・ら」の良いところ・改善点の把握を行いつつ、3回のプログラムを通して、参加者1人1人に自分らしい「う・ら・ら」とのかかわり方（例：利用する機会をつくる、利用しやすい環境をつくる、等）を発見してもらう。

ワークショップ各回のテーマ及び概要は表6のとおり。

表6 ワークショップ各回のテーマ及び内容

	テーマ	内容
第1回	本当に 大事なおでかけは何？	<ul style="list-style-type: none"> ・「今おでかけしたいところ」、「将来にわたっておでかけしたいところ」を可視化することで、日々のおでかけ行動を省みてもらい、自分にとっての「おでかけの大切さ」を再認識してもらう。
	個人フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回終了時にお試し乗車券を配布し、各自で実際に「う・ら・ら」へ乗車してもらう。 ・事前に記入用紙を配布し、「良いところ」「危険なところ」「気になるところ」の3つの視点で気づいた点を記入してもらう。 ・現地の写真を撮影した場合、役場に送付してもらい、第2回までに印刷して用意する。 <p>※情勢を見つつ、可能なら自由参加で乗車体験会を行う。</p>
第2回	「う・ら・ら」の良いところ、 危険なところ、 気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークで気づいた点を発表し合い、「う・ら・ら」の良いところや改善点を認識してもらう。
第3回	私の暮らしに「う・ら・ら」 を“ちょい足し”してみよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・「う・ら・ら」を使いこなすために、自分や周囲の人の暮らしに「う・ら・ら」を“ちょい足し”するためのレシピを考え、発表し合う。 <p>※“ちょい足し”レシピの例：自分が利用する機会をつくる、周囲の人が利用する機会をつくる、利用しやすい環境をつくる、等</p>

※1 グループは4名程度、最大定員を36名とする。

(2) 開催日時・場所・対象

町内在住の方を対象に、表7のとおり開催する（バスの発着時刻に合わせて開催）。

表7 ワークショップの開催日時・場所

	開催日	開催時間	場 所
第1回	9月17日（金）	① 森岡、緒川、緒川新田地区の方は 午後1時25分から（90分ほど） ② 石浜、生路、藤江地区の方は 午前10時45分から（90分ほど）	イオンモール東浦 2階 イオンホール
第2回	10月8日（金）		
第3回	10月15日（金）		

(3) 実施体制

全体進行や説明等を名古屋大学大学院 研究員 大野悠貴氏が務める。

このほか、全体進行を補助するサブ進行役が1～2名、各テーブルでの議論を補助するスタッフとして名古屋大学学生、及び防災交通課職員が4～6名参加する。

(4) 参加者の募集

参加者は広報ひがしうら8月号で幅広く募集するほか、各地区連絡所長など地域住民の活動に明るい方に声をかける。